

平成26年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢北陵高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 遅刻・欠席を減らし、挨拶の励行、服装容儀を整えるなど基本的な生活習慣、規範意識の一層の確立を目指す。	① 全職員で時間厳守について指導を徹底するとともに、保護者との連絡を密にするなどして、遅刻・欠席の減少に努める。また登校指導等により挨拶の励行を推進する。	【成果指標】遅刻者数が1日平均 A 3人未満であった B 5人未満であった C 7人未満であった D 7人以上であった 【成果指標】（生徒）自ら進んでの挨拶が A よくできている B だいたいできている C あまりできていない D ほとんどできていない	A 4月～3月 遅刻者447人 前年441人 対前年比101% 1日平均2.3人 A+Bの平均=66% 前期 後期 A 25% 22% B 42% 42% C 30% 32% D 3% 4%	遅刻者数は、ここ数年着実に減りつつある。早退者数も昨年222人が本年175人に減少してきており、来年度は指標を皆出席者に改めて、基本的な生活習慣の確立に努めたい。 生徒は次第に挨拶が習慣ついてきた。来年度は登校指導や授業での挨拶等を通して、社会人としての基本的な生活習慣の一つでもあることを自覚させ、さらに指導を徹底していきたい。
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規律・マナーの向上を目指す。	【満足度指標】（生徒）北陵生は頭髪・服装容儀やマナーなどについて A よく守っている B だいたい守っている C あまり守っていない D ほとんど守らなかった	A+Bの平均=82% 前期 後期 A 33% 32% B 50% 48% C 17% 19% D 0% 1%	昨年度は五十周年式典を通して生徒の意識も向上したが、本年は昨年の92%が82%に変わった。今後は行事などの様々な場をとらえて、頭髪指導・服装指導の徹底を図っていききたい。
	③ 生徒の行動に注意を払い、生徒の面接や保護者との連絡をより密にし、学校組織として生徒理解を深める。	【満足度指標】（生徒）校内で時々声をかけてくれる先生や悩みについて相談に応じてくれる先生方は A 3人以上 B 2人 C 1人 D 0人	A+Bの平均=52% 前期 後期 A 22% 24% B 28% 29% C 22% 21% D 28% 26%	後期で微増しており、面談機会の増加や高校生活の慣れもあると思われる。さらに生徒の言動への注意を行い、きめ細かい指導に心がけ、生徒理解を高めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	頭髪・服装容儀やマナー・挨拶の励行については、達成度が若干下がっている。今後、生徒の規範意識やマナー教育は強化する必要がある。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	創立50周年記念事業としての岩手県立宮古工業高校との交流事業は、地域貢献をテーマとした魅力ある学校づくりであり、本校に大変よい影響と効果を与えた。残りの3カ年も継続し、発展させていく。その際には、生徒の日常生活の視点から身近なボランティア活動や地域貢献活動の場面を通して、マナー教育等を強化する。また、中学時代の基礎学力が不十分な生徒への支援も含め、『面倒見のいい北陵高校』をさらに推し進めていく。			
2 生徒の学習意欲の喚起を図るための効果的指導法や授業改善に努め、基礎学力を定着させるとともに、生徒一人ひとりに応じた学力の向上を図る。	① 研究授業や公開授業を積極的にを行い、授業改善に努める。	【努力指標】（教職員）授業では生徒の発言や活動を増やす授業の工夫に A 積極的に取り組んだ B ある程度満足できる取り組みができた C 積極的な取り組みはできなかった D ほとんど取り組めなかった	A+Bの平均=71% 前期 後期 A 17% 17% B 53% 63% C 30% 18% D 0% 2%	昨年（80%）よりやや減少した。授業で生徒にきめこまかい指導ができるよう、研究授業を充実させる工夫を図っていききたい。
	② わかる授業を行うとともに、生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫・改善に努める。	【満足度指標】（生徒）わかる授業や興味関心を引き出す授業の工夫が A 十分に感じられる B だいたい感じられる C あまり感じられない D ほとんど感じられない	A+Bの平均=58% 前期 後期 A 9% 10% B 49% 47% C 36% 35% D 6% 8%	昨年度（67%）より減少した。授業評価などを利用して授業改善に努め、内容をわかりやすく説明することに努力し、生徒の興味・関心を持つ創意工夫を行うことが必要である。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
	③ 授業以外の時間での学習習慣の定着を図る。	【成果指標】（生徒） 授業以外の平均学習が、1時間以上の生徒が、 A 70%以上である B 50%以上～70%未満である C 20%以上～50%未満である D 20%未満である	C 平均=33% 前期 後期 1年 22% 18% 2年 21% 40% 3年 26% 71%	家庭学習の定着をめざし生徒に応じた課題を検討し、授業改善を図るとともに、生徒への働きかけを強めていきたい。
	④ 生徒が授業に集中し、発言等を通して授業に積極的に取り組む。	【努力指標】（生徒）授業中に意欲的に考えたり、発言するように A 積極的に取り組んでいる B ある程度取り組んでいる C あまり取り組んでいない D ほとんど取り組んでいない	A+Bの平均=39% 前期 後期 A 10% 7% B 30% 31% C 49% 49% D 11% 13%	昨年度（73%）が激減した。生徒の「なぜ？」と考えさせる場面を設定し、意欲を引き出す方策を考えるとともに、ICT機器の活用を図っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	学力検査の成績が良好な入学者が増えたが、その生徒たちへの学習の手立てとして模試や補習などの方策を練ってほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	長期休業期間中の課題に対する取組の理解度を把握するために、課題テストを実施する。また、校外模試を活用して、実力を試すだけでなく生徒がつまづいている分野の分析を通して補習・補充学習等の指導に活かしていく。			
3 組織的なキャリア教育により履修や進路についてのガイダンス機能を充実させ、生徒一人ひとりの進路の実現を図る。	① 各学年に応じた進路学習を工夫し、主体的で継続的な学びができるように支援する。	【努力指標】（教職員）本校教育課程を理解し、生徒への助言支援が A 十分に助言・支援できる B おおむね助言・支援できる C あまり助言・支援できない D ほとんど助言・支援できない	A+Bの平均=73% 前期 後期 A 17% 17% B 58% 54% C 23% 27% D 2% 2%	昨年度（85%）より減少した。生徒一人ひとりに丁寧な指導を実践する方法を確認していきたい。
		【満足度指標】（生徒）進路行事・「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」の学習が進路を考える上で A 大いに役立った B ある程度役立ったと感じる C あまり役立たなかった D まったく役立たなかった	A+Bの平均=79% 前期 後期 A 32% 27% B 49% 49% C 16% 21% D 3% 3%	昨年は85%であったが、本年は79%に減少した。総合学科の本校で、「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」はキャリア教育の中心である。内容を再検討し、さらに充実させていきたい。
	② 各種資格、検定試験に取り組む機会を設け挑戦する意欲を喚起する。	【満足度指標】（生徒）担任との面談は、進路目標を定める上で A 大いに役立った B ある程度役立った C あまり役立たなかった D まったく役立たなかった。	A+Bの平均=66% 前期 後期 A 20% 16% B 50% 46% C 25% 31% D 5% 7%	本年新設項目 面談内容と時期について、計画的に時期と内容を考えて実施する必要がある。
		【成果指標】（生徒）新たに検定や資格を取得した生徒の延べ人数が A 800人以上であった B 750人以上～800人未満であった C 700人以上～750人未満であった D 700人未満であった	B 延数757人 昨年 本年 漢検 230 233 英検 16 24 工業 279 234 商業 236 266	昨年（761人）とほぼ同数の資格取得述べ数であった。より多くの取得をめざすとともに、上位の資格を得ることで達成感を高め、学校生活を充実させていきたい。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
	③:保護者や関係機関と連携を深め、進路指導の充実を図る。	【満足度指標】（保護者）提供された情報に対して A 満足できた B ある程度満足できた C あまり満足できなかった D 満足できなかった	A+Bの平均＝81% 前期 後期 A 29% 27% B 53% 52% C 14% 19% D 3% 2%	昨年度（93%）より下降した。 保護者や関係機関との連携および連絡・情報提供について、さらに機会と内容の充実をめざしたい。
学校関係者評価委員会の評価	総合学科の魅力をより全面に出し、北陵高校で何をするのか・できるのかをアピールして、生徒たちがスキルや向上心のレベルアップを図ってほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	キャリア教育の充実を図り、社会生活や職業生活に必要な基本的能力や態度及び望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒の進路実現に努める。 総合学科ならではの複数の系列にまたがった学習や資格取得、難易度の高い資格取得を推奨し、自己の進路実現や将来の職業に活かしていく。			
4:部活動の積極的な加入・活動を推進し、その活動を通して活力ある学校生活の充実を図る。	①:部活動の活性化を目指し支援・運営する。	【成果指標】部活動への加入率が A 85%以上である B 80%以上～85%未満である C 75%以上～80%未満である D 75%未満である	A 前期・後期の平均91% 前期 後期 運動部 49% 55% 文化部 40% 38%	加入率は昨年度より上がった（昨年度は82%）。
		【成果指標】（生徒）部活動への出席率が A 85%以上である B 80%～85%未満 C 75%～80%未満 D 75%未満	B 83%	出席率が高い。 活動内容の目標と計画を定めて、教師の指導力を上げて成果につなげたい。
	②:地域行事・学校行事等に参加し、地域との連携を密にする。	【成果指標】清掃活動や地域行事、ボランティア等に休日も含めて一度は参加した生徒が（北陵アバンテを除く） A 400人以上 B 350人以上～400人未満 C 300人以上～350人未満 D 300人未満	A 前期 後期 220人 477人	地域貢献に協力的な生徒が多い。 友達どうしで声を掛け合い参加している生徒もいるようである。さらに活動できる場をつくっていききたい。
学校関係者評価委員会の評価	部活動の加入率調査では、女子の運動部活加入率が依然として低いので、今後さらに向上を目指してもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	魅力ある部の活動、生徒がやりがいを感じながら自主的に活動する部活動を目指し、加入率を高め、活性化を図り、豊かな人間性を身につけさせたい。			